

「図書館×教材の電子化＝大学教育改革！」

参加者 アンケート集計結果

当日参加者数：250弱名

アンケート提出数：40件

千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成することを目的とし、デジタル時代における大学の学習教育環境の改革に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のフォーラムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。(なお、ご記載いただいた内容は、アカデミック・リンク・センターのホームページに掲載し、広く紹介いたします)

1. 本日のフォーラムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・大学教育における図書館の立場について。壮大なテーマの様だが、もしこれが実現できるとすれば大学教育のみならず、図書館にとってもとても大きなターニング・ポイントになるのではないかと思った。
- ・図書館書店というのがおもしろいと思った。今までは図書館ではアマゾンで購入支援ぐらいが関の山だったので・・・。
- ・質問で分かったことですが、図書館のみではなく周りも巻き込むことで、このような試みができるのか、というのが感想です。やはり図書館単独ではなかなか難しいですね。
- ・教材(特に古い参考書)を電子化することがしてはいけないのかと思い込んでいたので新しい発見でした。
- ・リポジトリ、E-Learning, Learning コモンズ、Discovery etc といろいろなものが全て一つに統合されるイメージがよくわかった。文科省に振り回され右往左往していたが(殆ど実現していませんが)目指す先が見えたと思う。ありがとうございました。
- ・ラーニングコモンズについての取り組みを検討している段階でしたが、総合的に多くの分野を有機的に結び付けるこのアカデミック・リンクの試みは非常に先進的なものという印象を受けました。
- ・完成させてください。(アカデミック・リンク)
- ・大変すすんでいる。
- ・先生方の協力が今までのところよく得られているということがよく分かり上手に軌道に乗ってきているんだなという風に感じました。
- ・アカデミック・リンク・プロジェクトが何を行っているのか。
- ・ALCについて何のことか分かりました。大変おもしろい試みだと思います。
- ・大学に存在する「資源」をリンクさせた学習支援システムという考え方にとても感銘を受けました。図書館という一施設の改革ではなく、グローバル的な改革は重要という事が発見できました。
- ・ハコもの(LC)ばかり追い求める周囲を説得できる概念をよく整理できました。
空間(ハコだけではない)+コンテンツ+人的支援
- ・学生の質の底上げや就活支援ばかりに目がいつている大学教育・大学事務のあり方に一刀を投じる新しい切り口に一つの方向性を感じました。
- ・ALCの具体的な活動。
- ・リンクが大切。図書館の改革ではない。(大学教育への挑戦)
- ・図書館からはたらきかけることが必要だと感じました。
- ・アカデミックリンクのセミナーに参加させていただいたのは3回目でしたが、一番全体像がつかみやすい内容だったと思います。(「3回目だから」かもしれませんが)
- ・大変興味深く拝聴いたしました。現場の仕事(図書館での利用者対応全般)は業務委託を行っている関係で専任は少なく厳しい状況がありますが、いろいろと視点を移しながら今後の業務展開を考えていきたいと思いました。(図書館員=非専任なので・・・)
- ・「教育」に図書館がコミットする時の方向性、切り口について貴重なヒントを得られました。またコンテンツを「学生に見える形で」という点は重要だと最近とくに感じています。

- 学びの質、中身が講義からゼミ（受け身から参加）へ変わっていることを改めて分かった。ただ、成果をもう少し知りたい。なぜなら高校の授業改革に通じる所があると思うから。
- 学生に対しどのようなサービスを提供していかなければならないか、必要があるのか、大変参考になりました。
- 授業内容：どのようなことがされているか今まであまり気にしていなかったというか踏み込んでいけないように考えていたがそれは間違いであることに気付かされました。
- 「アカデミック・リンク」の全貌について。
- 大変参考になるお話ありがとうございます。図書館が他部署との共同作業により実験に取り組めることうらやましい限りです。
- 「単なる～ではない」というご説明でよくわかりました。図書館のいわゆる“従来のサービス”すら十分にできていない自分の勤務先でもできそうなこと、学習支援の有用なコンテンツなど思い描くことができました。
- 情報利用行動定観測プロジェクトのコンセプトが素晴らしいと思いました。大学図書館に限らずハコを使って満足してしまうことが多い中、誰が何をどのように調べているか把握することは重要と考えます。
- 白川先生の「バーチャル」「リアル」の概念は新鮮でした。SA や館も「バーチャル」という枠組で考えると Learning Commons が別の見方ができるように感じました。
- “大学教育”をどう変化した形でとりくむかということの具体的 example。
- 改革の意欲がよくわかった。

2. 本日のフォーラムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- 全国の国公私大でどの程度このような環境が整備または試験的に実施されているのか、まだまだ草の根的な動きなのか？
- FD との関係が見えない。
- 授業資料ナビはシラバスをしっかりと作ればよいのではないかと思うが、バラバラに行うのは教員への負担が増えるのではないか。その点はどのような状況でしょうか。
- 自学自習できない、設置基準にある単位要件を満たさない入手困難本をシラバス等に掲載する授業をする教員が問題であり、それは FD で改善すべき問題であろう。
- どのくらい学生にリーチすれば成功になるのか？
- e-learning とはいえ、授業の一環なのであれば制限適用されてもよいのでは、とも思います。
- 大変明解なご説明で自分なりに理解できたと思います。千葉大さんはどの Discovery サービスを導入されるご予定でしょうか？
- 図書館システム OPAC はそのままですか？
- コンテンツを電子化する際の著作権に係る許諾の手間、経費などがどのくらいのものなのか。
- POD の意義とリアリティについて。コピーサービスとどう違うのか？
- 図書館員の役割がよくわかりませんでした。
- 今後の進め方について、他大学も参画を期待しているのでしょうか？電子化を進める為の著作権許諾はスケールメリットを利用することで解決が早くなると考えられます。
- 図書館員の向上のためのプロジェクト。
- 対外的には著作権者とのやりとり内容（質・量）対内的には誰がどのように主導しているか（教員、職員、部局の調整など）
- 図書館員がアクティブラーニングについて学ぶ（あるいは実践する）必要はあると考えるべきでしょうか。
- リポジトリへの投稿などを依頼しても、教員からの協力を得ることはなかなか難しいので、具体的にどのような働きかけを行っているのか疑問に感じました。

- ・全体に盛りだくさんで駆け足でした。もう少しひとつひとつについてじっくりとお話をお聞きしたかったです。
- ・4年間の実験が終わった「後」のこと。
- ・図書館職員（従来の）にアカデミック・リンク・センター運営スキルはないと思う。センター教員の下働きですか？
- ・“アカデミック・リンク・センター”という機構がどのような位置で大学内にあるのか？“図書館+computer center”というのもおかしいし。

3. アカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・これからの図書館員の役割について。アカデミック・リンクを成功させるとしたら、図書館員はどう変わる必要があるのか？
- ・ある程度データがまとまったら、権利処理にかかる稼働の定量的な分析と課題提起に期待しています。
- ・学生の勉強しようという「動機づけ」について。
- ・教育支援に必要な図書館員の能力
- ・質問にもありましたが、新しい図書館員に求められる能力・資質・専門性等についてももう少ししっかりと話を聞いてみたいです。
- ・単なる「〇〇〇〇」を複数実践している大学は多いと思いますが、それを有機的に結合させ、成果を出すことにもがいているのだと思います。その解決方法の糸口になる様な実験成果の話は今後はしていただければと思います。
- ・学習の成果をどう評価するかももう少し知りたい。
- ・具体的な各担当者の役割。
- ・「授業資料ナビゲータ」のできるまで。(教員への依頼(?)から資料の収集やファイルの作成) 具体的な作業や苦労話なども教えて頂きたいです。
- ・今後の大学図書館の在り方。

4. 本日のフォーラムの内容、大学教育の情報化などについて、自由にご意見をお書きください。

- ・時代に則した教育の情報化は賛成、古き良き Face to Face の授業の良さも残しつつ、日本の教育水準の向上に成果が出ますこと、お祈りしております。
- ・図書館員が身を守るためにいろいろしてきたことが、逆に自身の首をしめてきたのかと思います。あくまでも学生目線で考えることが重要だと感じます。機会がありましたらぜひ見学させていただきたくよろしくお祈りします。
- ・今年の3月から図書館業務に関わっていますが、大学図書館の役割が非常に大きく変わりつつあることを感じています。今の変わり目にいかに上手く対応するかで大学教育の内容が左右されていくと思います。
- ・図書館の閲覧業務は業務委託化が進んでおり、どのような方法で改善できるか、今後検討しておきたいと思っています。
- ・実験の成功をお祈りしています。
- ・実験を成功させてほしい。
- ・「コンテンツ+技術+制度⇒改革！」に共感いたしました。
- ・今後セミナーやフォーラムを是非たくさん企画して頂ければありがたいです。本日は本当にありがとうございました。

- ・大変有意義な内容のフォーラムを有難うございました。図書館職員は従来の図書館学的な知識だけでなく教育学であったり、情報であったりそのような広い視点で学習支援を考えていかなければいけないと痛感しました。
- ・「情報化」という言葉は今となつては不明確な言葉になっている印象があります。ITを使うのか、デジタル化するのか、人やコンテキストによって解釈が大きく違うのではないのでしょうか。
- ・図書館からの大学教育改革、期待しています。
- ・LMC、著作権処理、学習空間の整備など、個々の項目については取り組んでいる例があるが、千葉大学のようにトータルにビジョンを持ってされていることに開眼された思いです。この壮大な「実験」の今後を楽しみにしています。
- ・教員とのつながり、関わりがとても大事であると感じた。こういった内容を図書館以外の催しで知らしめて欲しい。学長など・・・。
- ・壮麗な計画、感動的でした。とてもわかりやすく、また楽しいフォーラムでした。
- ・午前中の土屋先生のお話と合わせて考えると、今後、大学には「図書館」ではなく「図書館みたいなモノ」「かつて図書館だったモノ」ができてくるのかと思う。
- ・大学図書館が従来の枠にとらわれない領域を切り拓いた実績のある千葉大図書館が“e-learning 教材アシスタント”に止まらないレベルの高さを維持させてプロジェクトが成功することを望みます。
- ・会場が外からの音で聴きづらかったので離れた space で開いてほしいです。
- ・「大学教育には著作権はないのでしょうか」→この公開＝情報化にならないか？

5. 該当するものに○をつけてください。

- a. 学生（1名） b. 大学教員（1名） c. 大学図書館職員（24名） d. 大学職員（図書館職員以外）（2名） e. 公共図書館職員（1名） f. 出版関係（1名） g. その他（6名） 無回答（4名）

千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。（既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です）

お名前：（）
 ご所属：（）
 電子メールアドレス：（）

ご協力ありがとうございました。

※27名が新規に継続的な情報提供を希望